

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人うらら		
事業所名	グループホームうらら金山(櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiyosyoCd=2172800548-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、開設以来10年を迎えます。ここぬくもりの里地域は、字のごとく優しく、温かい方々に見守られ、また地域交流に最適な環境です。自然にも恵まれている。アクセス面では、下呂市から郡上市までのトンネル工事が一部開通となり利便性が高く今後期待できる。施設と隣接する温泉施設の敷地内には、下呂市立金山病院があり緊急時には、協力病院と連携を取り早期受診が可能で安心である。居室は、個室になっており、ご利用者様が使い慣れた私物を持ち込むことができる。居室には、思い思いの思い出の写真や作品等飾られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺には、下呂市立金山病院や温泉施設、道の駅、スポーツ施設などが集中している。立地条件の良さに加え、交通の利便性もよく、各地から訪れる人々が行き交い、利用者の生活環境にも豊かさをもたらしている。そして、周囲の山々に、四季の移ろいを感じ、安らぎとぬくもりを享受している。職員は、専門職としてのスキルが高く、利用者の満足な生活を支え、温かく見守り、その人らしく暮らせるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、両館の見やすい個所に掲げ、毎月の職員会議で唱和をして、職員との団結を深める。	理念は「ぬくもりの金山の地で、うららかに明るく笑い、楽しく語らん」と掲げている。理念の意義や支援を、日々振り返り、職員間で共有している。利用者の笑顔を引き出し、共に語らい、生き生きとした暮らしが送れるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を目的として、散歩にドライブをはじめ月一度外食に出掛けている。また、お花見会や紅葉狩りでは、地域の方々との交流を深めている。	自治会員として、地域の清掃活動や防火訓練などに参加し、地域の一員としてつきあっている。中学生の職業体験の受け入れたり、地域の文化祭には、利用者の作品を出展するなど、様々な交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験や知識を生かすべく、お尋ねがあれば、お話し現状もお伝えしながら、協力関係を深める様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様をはじめ、市役所関係者、自治会長、民生委員、長寿会への参加を頂き意見交換及び、活動報告を行うと共にご利用者様のサービス向上に生かしている。	会議は、隔月に開き、利用者の状態、行事計画などを報告し、意見を交換している。また、定例の火災訓練を会議開催日に合わせ、訓練時の課題や、避難誘導の改善点などを検討し、サービスの向上に反映させている。	運営推進会議に、地元シルバー、民生委員等の女性委員を含めることを準備している。利用者視点での会議運営に期待をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	金山地域連携会議が2か月に1回行われ、各事業所、地域包括支援、居宅支援、保健師、薬剤師との協議し連携をはかっている。	行政とは、連携を密に取り、空き情報、法改正についてや、困難事例などを相談し、助言を得ている。行政主催の研修会や他職種連携会議に出席して情報を交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会には、進んで参加し職員会には、研修発表を議題に盛り込み、発表及び勉強会で意見交換し身体拘束防止に努めている。	身体拘束や言葉の拘束など、事例を基に学習し、拘束ゼロのケアを実践している。利用者の安全の為に、やむを得ない場合は、家族の同意を得ながら、代替え対策を工夫し、最小限に留め、利用者にとストレスや抑圧感がないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文章は、回覧し、読後は署名及び捺印して徹底を図ると共に、職員会等で意見交換をして防止に努めている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が少ないのが現状である。今後の課題としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時には、契約書及び重要事項説明書、その他の関連書類を提示、説明し理解をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ご家族様よりご意見・ご要望を頂いている。ご要望により改善することができた例もある。	家族の意見や要望は、運営推進会議や訪問時、電話等で確認をしている。来訪時には、丁寧に対応し、相互理解を深めるよう努めている。家族から、消防訓練の際に、中庭のコンクリート貼り及びスロープの取り付けの提案があり、改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会での職員との意見交換及び、個別での面談を定期的に行い。よりよい関係及び運営をめざしている。	月例の職員会議が、意見や気づき、提案の場になっている。利用者の寝間着のボタンの不具合改善や着替えやすい工夫などがあり、職員の意見を、利用者の安心と信頼づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	関連施設も増え、協議出来る機会も増え職場の環境・条件の整備に努め、やりがいのある職場づくりをめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には進んで参加して頂いている。また、研修後には、研修レポートを提出して頂き、職員会にて研修発表を行い、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループ施設も増え、会議及び見学する機会が多くなり、交流を深めサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一丸となってご利用者様に寄り添い見出す。また、ご利用者様には、各担当職員が配置されており、事前の情報把握(カンファレンス)に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係が大切であり、要望等に耳を傾けより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様のご意見を尊重し見極めサービス支援につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活型ホームとして、出来ることはご本人にして頂くこと。家族の一員としてより良い関係を築き支えて行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いや状態を電話や面会時にご報告し随時、相談をご家族様にもチームの一員であることを伝え協力を得るよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が面会に来て下さることも多くなるまたお手紙、はがきにて連絡をとられるご利用者様もおられる。なお一層支援に努める。	知人、友人、親戚の訪問が多く、居間でゆっくり過ごしてもらっている。町内の児童館、道の駅や地元の催事に出かけ、馴染みの人に出会っている。また、家族の協力を得て、買い物に出かけたり、希望の場所に立ち寄ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域の方々とのふれあいを大切に、行事の一環として月に一度職員とご利用者様と外食に出掛けている。また、ご利用者様同士の関わりを大切に孤立にならない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設への異動によりやむを得ず退所される方が多くなってきている。これまでの関係を大切に支援や相談に努めていく場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りノート、気づきノート、カンファレンス前の用紙を活用し、日常の行動や会話から得た情報を職員間で共有し、ご本人の思いの把握に努めている。	家族から、本人の生活歴を聴いている。日常の場で、本人との会話、表情や行動からも、思いを把握している。知り得た情報は、職員間で共有をし、利用者の思いに沿った暮らしができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様家族の話、関連施設からの情報提供書、担当ケアマネージャーから経過等の内容を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、介護記録表、排泄状況表を記入し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは、面会や電話、文書で意見を聞いている。職員間で「思いや意向」、「課題」についての話し合いが、なされていないのが現状であり、思いの把握や共有についても今後の課題である。	家族の面会時や、本人との日々の関わりのなかで、暮らし方の意向を確認している。職員の意見と介護記録の評価を踏まえ、その人らしく、より良い暮らしができる介護計画を作り、状況に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録するが、ケアの実践と結果、工夫を記入することが少ない。カンファレンスで介護計画の評価を行い職員間で見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では、職員配置等の課題があり十分とはいえない。今後サービスの多機能化は、重要な課題と位置づけ取り組んでいきたい。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の事業所も増え、連携し協力し合える機会も多くなり。また、ぬくもりの里プロジェクトも立ち上がり、地域一丸となり支援を進めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様の希望のかかりつけ医を受診している。受診の結果は、その都度ご家族様にご報告し、治療方針等へのご理解、納得を得ている。	かかりつけ医は、利用者の希望を尊重している。協力医による往診体制があり、職員の看護師と連携して、安心な医療を受けている。緊急時は、職員と家族が連携し、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その日の、健康状態を報告。記録と気づきノート等と合わせて相談しながら適切な指示を得ている。又、必要に応じて24時間対応可能な体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医院の指示により、連携し早期治療が可能である。又、ご利用者様が安心して早期入退院できる様、地域連携室の相談員との関係を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針により、ご家族様と話し合い、当施設で出来ること、出来ない事を十分説明しご家族様にご理解とご協力を得る。	入居時に、重度化や終末期の方針を、本人・家族に説明し、同意を得ている。早い段階で、関係者で話し合い、事業所でできる範囲の支援をして、利用者が安心して過ごせるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制は整備しているが、応急手当や初期手当等の訓練には至っていない。今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日には、火災を想定した避難訓練を両館と共に実施している。また、年2回消防署立会いの避難訓練を行い。通報、初期消火、避難誘導訓練を実施。防災意識を高める。	災害訓練は、夜間想定を含め、初期消火、器具の扱い、通報、避難誘導などを実施し、防災意識と実践力を高めている。地元の防災訓練にも参加し、地域との協力関係を整え、自主訓練も毎月行っている。	上階ユニット利用者の避難には、やや不安があり、より安全に、避難ができる工夫に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れない様に心掛け、丁寧な言葉遣いに努めている。居室に入る場合には、必ずお声掛け同意を得る様にしている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように、丁寧な言葉づかいに努めている。職員の学習を定期的に行い、利用者が話すことに真摯に耳を傾け、時には、方言を使い、気持ちを和らげるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働き掛ける様努めているが、状況により困難とを感じる事がある。優先課題としてカンファレンスで取り組みたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご利用者様の希望に沿うように努め、一人ひとりの気持ちを大切に、ゆったりとした時を過ごすことが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整容の変化に気づき、声を掛ける様にしている。ご本人が出来ない場合は、ご希望を聞きその都度支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日、行事、季節に応じ献立を工夫している。また、食材の下ごしらえや配膳のお手伝いをして下さる。食事の際には、ご利用者様と同じテーブルに座り会話しながら食事時間を過ごしている。	利用者も一緒に、食材の買い出しから、準備や片付けに関わっている。食事は、3食とも、手作りである。職員も同じ食事を摂りながら、ゆっくりと会話を交わし、美味しさと食べる楽しさを味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をたて、栄養面や食べやすい様に調理方法を工夫している。水分は1日2回のおやつの時間及び、入浴後の補給を中心に随時摂って頂く様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い。食事の様子からも口腔状態に気を付けている。夜間は、義歯を預かり洗浄剤を使用、週一回コップ、歯ブラシ、義歯ケースを消毒し、歯ブラシの消耗も確認し清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況一覧表からご利用者様個々の排泄パターンを把握し、応じた時間に声掛けし支援している。	個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導で、排泄の自立につなげている。夜間も、日中と同じような配慮で、失敗を減らし、トイレでの排泄が、自信につながるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に野菜を多く取り入れ、食事時間以外にも随時水分補給をしている。体操、歩行など便秘予防の運動に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴準備は毎日しているが、高齢や体調からご利用者様は、隔日の入浴となる。家庭と同じ浴槽で一人20分から30分とゆっくり入浴して頂ける様配慮している。	入浴は、本人の希望に応じて、柔軟に対応している。介助者との相性や習慣、こだわりにも配慮をし、楽しい入浴を支援をしている。入浴時間中は、利用者との良きコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の予定にこだわる事のないように、ご利用者様の体調や好みに対応している。寝具も定期的に洗濯し天日干しを行い気持ち良く安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり職員は、いつでも知ることが出来る。症状の変化は、生活記録、気づきノート、申し送りを行い必要に応じて看護師、協力医院に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のできる力に応じ、掃除 洗濯物干し 洗濯たみ。また、レクリエーションでは、日課である体操、ちぎり絵、裁縫、塗り絵等数多くの作品を作り、展示会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見会、紅葉狩りなどの遠足には、ご家族様や外出支援の方にご協力を頂き、一人でも多くの方に自然を満喫して頂ける様に支援している。	利用者の体調や天候に合わせて、自然豊かな中を、日常的に散歩に出かけている。食事会や近くの寺、児童館、道の駅へも外出している。年間行事では、桜見物や紅葉狩りなど、利用者が喜ぶところへ出かけている。	

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お預けすることは厳しいですが、場合によっては、3000円程度の金額をご自身で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、友人、知人方を心配され、お手紙やはがき、電話等で連絡できる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造づくりで広い空間を利用し、行事や外出で撮影した写真及び、ご利用者様の手作り作品を、リビング壁面に掲示している。また、ご利用者様の思い出として写真はアルバムとしてとして、いつでも見れるように保管している。	共用の空間は広く、空気清浄器、加湿器などで空調管理が整っている。木の温もりと、窓から見える景色が利用者の安らぎになっている。リビングの畳コーナーには、掘りごたつがあり、壁には、手づくり作品や記念写真を掲示し、居心地よい空間づくりを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	櫻館南側には、ウッドデッキがあり日光浴を楽しみながら、ご利用者様同士ゆっくりとくつろげる空間づくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用の際は、ご本人様が使い慣れていたタンスベッド、お化粧台等を持ち込まれ居心地よいご自身にあった居室空間作りを行う。	居室の入り口には、好みの表札で迷わないようにしている。使い慣れたタンス、ベッドなどの家具類を配置し、記念の写真などを飾って、安心して、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造で新館は二階建ての為、階段の昇降には、十分注意が必要ですが、見守りが必要なご利用者様は、エレベーター利用としている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人うらら		
事業所名	グループホームうらら金山(向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	平成27年1月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、両館の見やすい個所に掲げ、毎月の職員会議で唱和をして、職員との団結を深める。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を目的として、散歩にドライブをはじめ月一度外食に出掛けている。また、お花見会や紅葉狩りでは、地域の方々との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現場での経験や知識を生かすべく、お尋ねがあれば、お話し現状もお伝えしながら、協力関係を深める様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様をはじめ、市役所関係者、自治会長、民生委員、長寿会への参加を頂き意見交換及び、活動報告を行うと共にご利用者様のサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	金山地域連携会議が2か月に1回行われ、各事業所、地域包括支援、居宅支援、保健師、薬剤師との協議し連携をはかっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会には、進んで参加し職員会には、研修発表を議題に盛り込み、発表及び勉強会で意見交換し身体拘束防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	文章は、回覧し、読後は署名及び捺印して徹底を図ると共に、職員会等で意見交換をして防止に努めている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会が少ないのが現状である。今後の課題としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前、契約時には、契約書及び重要事項説明書、その他の関連書類を提示、説明し理解をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ご家族様よりご意見・ご要望を頂いている。ご要望により改善することができた例もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会での職員との意見交換及び、個別での面談を定期的に行い。よりよい関係及び運営をめざしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	関連施設も増え、協議出来る機会も増え職場の環境・条件の整備に努め、やりがいのある職場づくりをめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には進んで参加して頂いている。また、研修後には、研修レポートを提出して頂き、職員会にて研修発表を行い、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループ施設も増え、会議及び見学する機会が多くなり、交流を深めサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一丸となってご利用者様に寄り添い見出す。また、ご利用者様には、各担当職員が配置されており、事前の情報把握(カンファレンス)に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係が大切であり、要望等に耳を傾けより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様のご意見を尊重し見極めサービス支援につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活型ホームとして、出来ることはご本人にして頂くこと。家族の一員としてより良い関係を築き支えて行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思いや状態を電話や面会時にご報告し随時、相談をご家族様にもチームの一員であることを伝え協力を得るよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が面会に来て下さることも多くなるまたお手紙、はがきにて連絡をとられるご利用者様もおられる。なお一層支援に努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域の方々とのふれあいを大切に、行事の一環として月に一度職員とご利用者様と外食に出掛けている。また、ご利用者様同士の関わりを大切に孤立にならない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設への異動によりやむを得ず退所される方が多くなってきている。これまでの関係を大切に支援や相談に努めていく場合もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申し送りノート、気づきノート、カンファレンス前の用紙を活用し、日常の行動や会話から得た情報を職員間で共有し、ご本人の思いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様家族の話、関連施設からの情報提供書、担当ケアマネージャーから経過等の内容を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表、介護記録表、排泄状況表を記入し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様とは、面会や電話、文書で意見を聞いている。職員間で「思いや意向」、「課題」についての話し合いが、なされていないのが現状であり、思いの把握や共有についても今後の課題である。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録するが、ケアの実践と結果、工夫を記入することが少ない。カンファレンスで介護計画の評価を行い職員間で見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状では、職員配置等の課題があり十分とはいえない。今後サービスの多機能化は、重要な課題と位置づけ取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の事業所も増え、連携し協力し合える機会も多くなり。また、ぬくもりの里プロジェクトも立ち上がり、地域一丸となり支援を進めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及びご家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族様の希望のかかりつけ医を受診している。受診の結果は、その都度ご家族様にご報告し、治療方針等へのご理解、納得を得ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その日の、健康状態を報告。記録と気づきノート等と合わせて相談しながら適切な指示を得ている。又、必要に応じて24時間対応可能な体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医院の指示により、連携し早期治療が可能である。又、ご利用者様が安心して早期入退院できる様、地域連携室の相談員との関係を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・ご家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針により、ご家族様と話し合い、当施設で出来ること、出来ない事を十分説明しご家族様にご理解とご協力を得る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制は整備しているが、応急手当や初期手当等の訓練には至っていない。今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日には、火災を想定した避難訓練を両館と共に実施している。また、年2回消防署立会いの避難訓練を行い。通報、初期消火、避難誘導訓練を実施。防災意識を高める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬する気持ちを忘れない様に心掛け、丁寧な言葉遣いに努めている。居室に入る場合には、必ずお声掛け同意を得る様にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働き掛ける様努めているが、状況により困難と感じる事がある。優先課題としてカンファレンスで取り組みたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限りご利用者様の希望に沿うように努め、一人ひとりの気持ちを大切に、ゆったりとした時を過ごすことが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や整容の変化に気づき、声を掛ける様にしている。ご本人が出来ない場合は、ご希望を聞きその都度支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日、行事、季節に応じ献立を工夫している。また、食材の下ごしらえや配膳のお手伝いをして下さる。食事の際には、ご利用者様と同じテーブルに座り会話しながら食事時間を過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立をたて、栄養面や食べやすい様に調理方法を工夫している。水分は1日2回のおやつ时间及び、入浴後の補給を中心に随時摂って頂く様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い。食事の様子からも口腔状態に気を付けている。夜間は、義歯を預かり洗浄剤を使用、週一回コップ、歯ブラシ、義歯ケースを消毒し、歯ブラシの消耗も確認し清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況一覧表からご利用者様個々の排泄パターンを把握し、応じた時間に声掛けし支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に野菜を多く取り入れ、食事時間以外にも随時水分補給をしている。体操、歩行など便秘予防の運動に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴準備は毎日しているが、高齢や体調からご利用者様は、隔日の入浴となる。家庭と同じ浴槽で一人20分から30分とゆっくり入浴して頂ける様配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設の予定にこだわる事のないように、ご利用者様の体調や好みに対応している。寝具も定期的に洗濯し天日干しを行い気持ち良く安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はファイルにあり職員は、いつでも知ることが出来る。症状の変化は、生活記録、気づきノート、申し送りを行い必要に応じて看護師、協力医院に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のできる力に応じ、掃除 洗濯物干し 洗濯たたみ。また、レクリエーションでは、日課である体操、ちぎり絵、裁縫、塗り絵等数多くの作品を作り、展示会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見会、紅葉狩りなどの遠足には、ご家族様や外出支援の方にご協力を頂き、一人でも多くの方に自然を満喫して頂ける様に支援している。		

岐阜県 グループホームうらら金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お預けすることは厳しいですが、場合によっては、3000円程度の金額をご自身で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、友人、知人方を心配され、お手紙やはがき、電話等で連絡できる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造づくりで広い空間を利用し、行事や外出で撮影した写真及び、ご利用者様の手作り作品を、リビング壁面に掲示している。また、ご利用者様の思い出として写真はアルバムとしてとじて、いつでも見れるように保管している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	向日葵館2Fには、ウッドデッキがあり、この空間を利用できないか検討し日光浴、夏には花火見物ができる様、テーブルとイスを購入しご利用者様が、ゆっくりとくつろげる空間作りを行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用の際は、ご本人様が使い慣れていたタンスベッド、お化粧台等を持ち込まれ居心地よいご自身にあった居室空間作りを行う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造で新館は二階建ての為、階段の昇降には、十分注意が必要ですが、見守りが必要なご利用者様は、エレベーター利用としている。		